



コール スロットリングの設定

- [コール スロットリングの概要, 1 ページ](#)
- [コール スロットリングの設定, 2 ページ](#)

コール スロットリングの概要

コール スロットリングによって、システムは新しいコール試行を自動的にスロットルまたは拒否できます。このアクションは、ユーザがオフフックからダイヤル トーンを聴取するまでに遅延を認識するようになる状況で実行されます。

この遅延を引き起こす可能性があるいくつかの要因は、次のとおりです。

- 過度なコール アクティビティ
- 低い CPU の可用性
- ルーティング ループ
- ディスク I/O の制限
- ディスク フラグメンテーション

システムはコール スロットリング パラメータに指定された値を使用して、ダイヤル トーンに遅延が生じている可能性があるかどうかを判別し、状況に応じてそれ以上コール スロットリングが必要なくなるタイミングも判別します。

ダイヤル トーンの過度な遅延を防ぐためにスロットリングが必要な場合、システムは **Code Yellow** 状態に切り替わり、新しいコール試行をスロットル（拒否）します。

コール スロットリング サービス パラメータに設定されたしきい値を超えたために、システムがダイヤル トーンの遅延を計算すると、Cisco Unified Communications Manager は新しいコールを拒否します。コール スロットリングを有効化すると、新しいコールを試みたユーザはリオーダー音を受信します。電話のモデルに応じて、電話機のディスプレイにプロンプトが表示される場合があります。

コール スロットリングは、ユーザがシステム管理者に不満を言ったり、システムのダウンや電話の破損ではないかと疑問を抱かせたりすることのある過度な遅延のタイプを効果的に防ぎます。このような遅延が発生するタイミングを予測するため、システムは常にシステムをモニタしています。

ダイヤル トーンの遅延がコール スロットリング サービス パラメータのガイドライン内である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Code Yellow 状態を終了することでコールのスロットルを停止し、新しいコールは再び許可されます。

コール スロットリングの設定



注意

コール スロットリング パラメータは、カスタマー サポートに指示された場合を除き、変更しないことを推奨します。

コール スロットリングは、システムが過負荷なコール アクティビティ、低い CPU の可用性、ディスク フラグメンテーションなどの状況を検出すると自動的に発生します。これらの状況が修正されると、システムはスロットリングを自動的に終了します。

関連トピック

[コール スロットリング サービス パラメータ, \(2 ページ\)](#)

コール スロットリング サービス パラメータ

表 1: コール スロットリング サービス パラメータ

サービス パラメータ	説明
Code Yellow Entry Latency	システム内のさまざまなデバイスによって Cisco Unified Communications Manager に送信されるシステム診断レイヤー (SDL) メッセージを処理するための最大許容遅延 (ミリ秒単位) を定義します。この最大値は、キープアライブ インターバルや変更通知などのさまざまなアクティビティに関して Cisco Unified Communications Manager によって送受信される内部メッセージにも適用されます。計算された平均予測遅延がこのサービス パラメータで指定した値を超えた場合、システムは Code Yellow 状態に切り替わり、コール スロットリングを開始して新しいコールの受け入れを停止します。

サービスパラメータ	説明
Code Yellow Exit Latency Calculation	<p>Cisco Unified Communications Manager がコールスロットリングを開始した後に Code Yellow 状態（コールスロットリング）を離脱する終了基準を指定するため、Code Yellow Entry Latency の許容可能なパーセンテージを決定します。</p> <p>このパラメータに指定する値は、Code Yellow Entry Latency パラメータ（ミリ秒単位で測定された遅延）の値を使用する式から導き出されます。</p> <p>パーセンテージを求めるには、次の式を使用します。</p> <p>Code Yellow Entry Latency 値に、Code Yellow Exit Latency 値を乗算します。</p> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Code Yellow Entry Latency サービスパラメータ値：20 ミリ秒 • Code Yellow Exit Latency サービスパラメータ値：40% • Code Yellow Exit Latency 値 = 20 X 0.4 = 8 ミリ秒。つまり、Cisco Unified Communications Manager は、計算されたメッセージ遅延が 8 ミリ秒以下になると、Code Yellow 状態を終了します。 <p>Code Yellow 状態を終了するため、Cisco Unified Communications Manager は平均予測遅延が Code Yellow Exit Latency の値を下回っていることを確認します。</p>
Code Yellow Duration	<p>Cisco Unified Communications Manager システムが Code Yellow 状態（コールスロットリング）を持続できる分数を指定します。</p> <p>この期間が経過しても、システムが引き続き Code Yellow 状態の場合、Cisco Unified Communications Manager は Code Red 状態に切り替わり、Cisco Unified Communications Manager が Code Yellow 状態のままである期間が延長され、回復できないことを示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が Code Red 状態になると、Communications Manager サービスが再起動し、メモリダンプも生成されるため、障害の分析に役立つことがあります。</p>

サービス パラメータ	説明
System Throttle Sample Size	<p>Cisco Unified Communications Manager が SDL メッセージを処理するための平均予測遅延の計算に使用されるサンプルサイズ（秒単位）を示します。</p> <p>たとえば、サンプルサイズ 10 は、Cisco Unified Communications Manager が、平均予測遅延を計算して、それを CodeYellow Entry Latency パラメータの値と比較する前に、連続する 10 秒間にゼロ以外の遅延値を計算する必要があることを示しています。</p> <p>このパラメータを使用してコール スロットリングを無効化できます。</p>